

行事名	日韓技術士親善サッカー大会
日時	平成 25 年 10 月 17 日(木) 15:00 ~ 17:00
場所	韓国水原市 水原総合運動場(サッカー親善大会)
担当者: (○印:リーダー)	○高橋 義也、藤井 佳直(記)
参加者数	日本:16名

1. 背景・目的

日韓親善サッカー大会での勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会 (2007 年 12 月)」では、参加メンバーを増やしながらかサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は、韓国水原市で開催された日韓技術士国際会議の前夜祭/日韓技術士親善サッカー大会(本番)を実施した。

2. 内容

韓国開催の日韓技術士国際会議は、毎年サポートが素晴らしく、この度の日韓技術士親善サッカー大会の会場も韓国リーグ 2 部の水原 FC ホームグラウンドで試合をすることができた。ピッチコンディションも素晴らしく、スクリーンには「韓国 対 日本」と国旗を交えて表示され、国際マッチの公式試合を彷彿させる会場だった。また、観客席には歴代の日韓技術士サッカーの集合写真を飾っており、第 9 回目までの歴史を思い起こさせる演出がされていた。会場では、日本チームがそろ前から韓国チームがすでに練習を始めており、ホームでの負けが許されないかのような気持ちが伝わってきた。

日韓技術士親善サッカー大会の開会式では、出席できなかった水原市長の代理として副市長が急遽駆けつけ、選手に激励の言葉をおくった。次に、オープニングセレモニー(始球式)としてPK戦が実施された。

本試合では、日本技術士サッカー代表と韓国技術士サッカー代表がそれぞれの力をぶつけ合う良い試合となった。過去、日本の技術士チームは、韓国チームに押されることが多かったが今回の試合では、アウエーにもかかわらず優勢に試合を運ぶ形となった。前半は、韓国チームにすきをつかれて失点するが、その後日本チームが同点に追いつき、逆転劇を見せる盛り上がりを見せた。後半は、両チームとも全力であと1点を目指そうと必死の攻防が続いた。後半中ごろ、韓国チームが再度日本チームのすきをつくる形で、同点となりその後、両チームとも両国の本当の代表選手のように試合を行っていた。同点のまま試合終了後、選手たちの姿を見て観客からは、両チームに対して温かい拍手が送られた。

試合終了後は、激闘を終えた選手たち、観客たちとともに前夜祭(懇親会)が水原市内で開催され、韓国料理に舌鼓しながら試合の健闘をたたえあった。

<試合結果>

前半:日本 2 - 1 韓国 得点者:藤井さん(アシスト:麻生さん)、麻生さん(アシスト:沼中さん)

後半:日本 0 - 1 韓国

結果:日本 2 - 2 韓国 MVP:麻生さん(1ゴール、1アシスト)

3. 成果と所感

- ・ 日本開催とは違い、副市長がサッカーのために激励のあいさつに来ていただいたり、Kリーグのスタジアムで国際審判の方が笛を吹いていただいたりと親善試合から日韓技術士国際会議に対する韓国の気持ちが伝わった。国にとって技術士が高い価値があることを国外に伝えることとして日本も学ぶところがあった。
- ・ 試合では、日本がベストメンバーではなかったもののこれまでの交流を通じた結果が出たと感じた。今までの日韓戦では無かった有利な試合運びとともに1試合に2得点による逆転、試合展開からの得点は、大きな成長であると感じた。
- ・ 試合後は、日本技術士、韓国技術士ともに言葉の壁を越えた交流を深めることができた。サッカーを通しての国際交流が今後も続くことになれば、若手の参加も増え日韓技術士国際会議の発展につながると考えられる。心技体すべてにおいて交流できる国際会議として発展してほしい。

4. 今後の展開

- ・ 試合勘を忘れないように、今後はサッカーができるときはサッカーを行いたいと考えている。また、シュート数が少なかったため、シュート練習にも力を入れたい。
- ・ このサッカーというきっかけで北陸、中部、北海道の技術士の方と交流ができており、このような全国の技術士との交流を広げている活動は、技術士会では少ないため、今後は全国の技術士との交流を目指した活動につなげていきたい。
- ・ 次の日韓技術士国際会議のサッカーは記念すべき第 10 回大会のため四国・松山大会では、圧勝できるように準備をする。

5. 写真

試合会場(水原FC ホームグラウンド)



挨拶



試合風景



日本技術士サッカー代表



韓国技術士サッカー代表



行事名	日韓技術士国際会議
日時	平成 25 年 10 月 17 日(木) ~ 平成 25 年 10 月 19 日(土)
場所	韓国水原市 ibis Ambassador Suwon Hotel
担当者: (○印:リーダー)	○高橋 義也、藤井 佳直(記)
参加者数	-

1. 背景・目的

第 43 回目となる日韓技術士国際会議が韓国水原市で開催され、今回のテーマである「未来科学技術時代における技術士の役割」について日本技術士、韓国技術士が議論を交わした。

2. 内容

式典・基調講演

韓国:「科学技術時代の到来による創造経済活性化と経済主体の役割」 李 氏

日本:「未来科学技術における技術士の役割」 富田 氏

第 1 分科会 国土・環境・資源・エネルギー

第 2 分科会 建設・安全・防災

第 3 分科会 技術者倫理・技術者資格・技術教育

第 4 分科会 電気・電子・情報・通信・機械

第 5 分科会 英語発表

今回の日韓技術士国際会議の開催都市は、世界文化遺産である華城があり、2002 年日韓共催のサッカーワールドカップの舞台にもなった都市であり、さらには世界的にも有名な Samsung 電子がある科学技術でも中心的な存在の水原市で開催された。今回のテーマは、「未来科学技術時代における技術士の役割」として日本技術士、韓国技術士がともに議論を行い、高い技術を発表し交流を行った。分科会の中では、発表だけではなく実演を交えた発表もあり言葉での交流以上の体験ができる講演もあり、大いに盛り上がった。

3. 成果と所感

- ・ 今回の開催地水原市の市長、副市長共に技術士であることから、技術士国際会議に対する協力が素晴らしかった。
- ・ 昨年度、お会いした韓国の技術史の方とも日韓親善晩餐会で会うことができ、とても楽しい交流となった。
- ・ 分科会では、スマートフォン事情が日本でも韓国でも同じような問題に直面していることがわかり、これに対する技術士としての役割について考えさせられた。
- ・ 基調講演ではこれからの科学技術時代への技術士の役割について聴講した。この講演の中で技術を身につけるだけでなく、その技術を如何にして社会に反映するかを常に考えることが技術士として重要であることを実感した。
- ・ 日韓技術士国際会議は両国の技術力の切磋琢磨もさることながら、個人レベルでの交流の輪を広げる場としても重要であると感じた。そのためには、他国の文化を知ること重要であるが、自国の文化・技術を知り相手に伝えることが重要であることを実感した。

4. 今後の展開

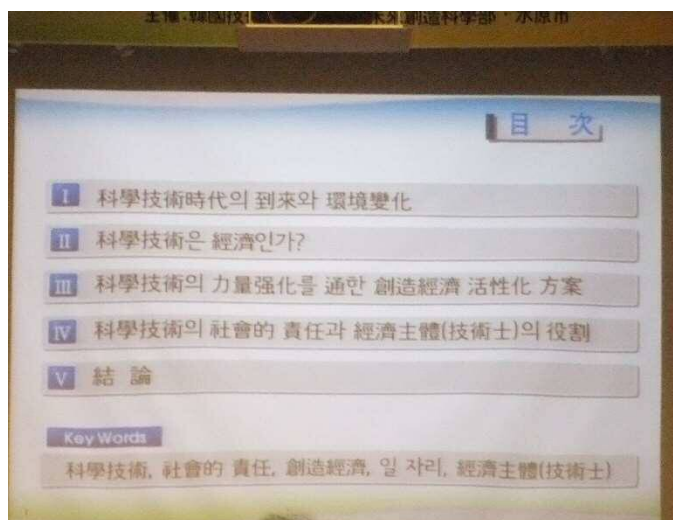
- ・ 今回の国際会議に参加して、日本国内でも技術士の知名度を上げていく努力が必要であると実感した。青年技術士交流実行委員会として、できる限りの努力をしていきたいと思っただけでなく、次回の国際会議では多くの韓国技術士の方に日本のすばらしさ、日本技術士の技術力の高さを知っていただけるようにしていきたい。
- ・ 身につけた技術をどのように社会貢献するかは技術士全体の課題であり、国内・国外に反映させていく手段を議論する必要があると感じた。青年技術士交流実行委員会としても、社会貢献、国際貢献に対する技術士の役割を議論しアウトプットできるようにしていきたい。
- ・ 国際交流の最初の一步はお互いが直接会話できることであると考えている。そのため、韓国の方と直接会話ができるようにハンゲルの学習をしてきた。今回の晩餐会では 3 割程度しかハンゲルで会話ができなかったが、次回の国際会議では更にハンゲルで会話できるよう努力したい。

5. 写真

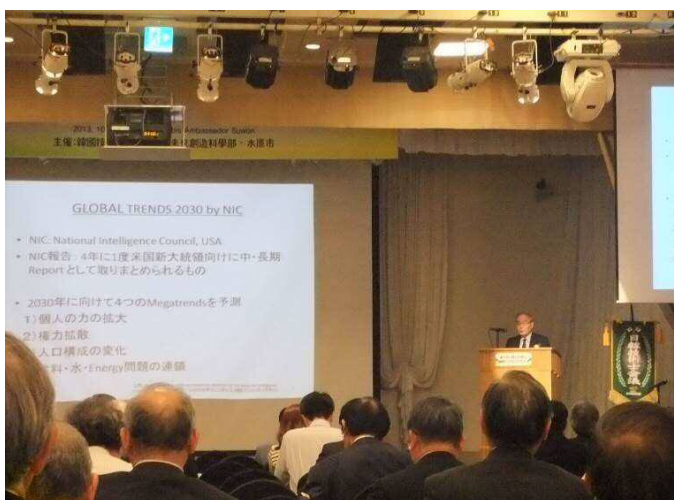
日韓技術士国際会議 開催



基調講演: 韓国



基調講演: 日本



日韓親善晚餐会



行事名	日韓技術士国際会議(日韓親善サッカー大会)
日時	【日韓親善サッカー】平成26年10月19日(日)19時00分 【日韓技術士国際会議】平成26年10月20日(月)
場所	【日韓親善サッカー】愛フィールド梅津寺 【日韓技術士国際会議】ひめぎんホール
担当者: (○印:リーダー)	古川 星矢、○高橋 義也(記)
参加者数	19名

1. 背景・目的

日韓の技術交流として開催されている日韓技術士国際会議において、日韓の若手技術士の親睦の一環としてサッカーの親善試合を開催しています。若手技術士の交流と言うこともあり日韓親善サッカーは青年技術士交流実行委員会がサポートしています。この日韓親善サッカーを通して、日韓との交流はもとより国内の若手技術士同士の交流を深めることを目的としています。

2. 内容

今年の日韓親善サッカーは初のナイト開催となり従来とは異なる雰囲気で開催されました。試合は前半25分、後半25分ハーフで行われました。

前半開始から日本ペースで試合が進み開始直後、日本が幸先よく先取点をあげました。その後も日本チームがボールを支配しながら試合を進め日本チームのサイドからのボールが韓国ディフェンダに当たりオウンゴールで2点目をあげ、2点先取して前半を折り返しました。

後半は韓国チームも調子をあげ、後半早々、韓国チームが攻勢を仕掛け、ついに日本チームのゴールを割られてしまいました。この得点で韓国チームが更に攻勢を強めて日本ゴールに襲いかかりますが、日本は固い守備でゴールを割らせませんでした。その後、一進一退の攻防を繰り広げ、日本チーム、韓国チームともに1点ずつ追加し、最終的には3対2という結果で、日本チームが勝利して試合が終了しました。

試合後は松山市内で韓国チームの方々と交流会で様々な交流を行い、次回の春川での再会を約束して交流会を終了しました。

また、日韓技術士国際会議では基調講演、分科会が行われ、日本と韓国の技術交流も行われました。

3. 成果と所感

今回は青年技術士交流実行委員会で開催していたスポーツ交流の成果が存分に発揮することができました。その結果を出す過程において日本国内の技術士との交流できたは非常に重要だったと思います。また、ひとつの目的のためお互いに意見を出し、信頼し結果を出せたことの達成感、充実感、とてもよかったと思います。

また、日韓技術士交流会では、日本チームの選手による発表があり聴講しました。様々な情報や技術を伝えるための重要性を再確認することができました。

日韓技術士国際会議は韓国の技術士との交流に限らず、日本国内の技術士との交流を持てることが非常に有意義なものだと思います。

4. 今後の展開

次回は韓国の春川で開催予定です。それまで、定期的なスポーツ交流の活動で、北陸本部、中部本部との交流を行いたいと考えています。

5. 写真



以上

行事名	第45回 日韓技術士国際会議 第11回 日韓技術士親善サッカー大会
日時	2015年10月22日(木)～2015年10月24日(土)
場所	Elysian Gangchon Resort(エリシアン カンチョン リゾート)(韓国江原道春川市) 松岩 Leports Town 主競技場(韓国江原道春川市)
講師、発表者	10/22 日韓技術士親善サッカー大会 10/23 開会式、合同会議、分科会、晩餐会 10/24 テクノソールリズム
担当者: (○印:リーダー)	○中村聡、高橋義也(記)
参加者数	江川千洋、佐藤学、高橋邦幸、永田泰浩、山中淳至、中村彰文、田中真也

1. 背景・目的

日韓技術士の親善の一環として開催されている日韓親善サッカー大会でのサポートと本会議へ参加し、韓国若手技術士との交流を深めると共に、技術士としての知識の向上を目的として参加した。

2. 例会内容

2. 1. 日韓技術士親善サッカー大会(16:00～18:00)

- ・開会式
- ・親善試合
- ・前夜祭

2. 2. 本会議(9:00～21:00)

- ・開会式
- ・基調講演
- ・分科会
- ・晩餐会

3. 成果と所感

今年は第11回日韓技術士親善サッカー大会が開催された。昨年は日本で開催し勝利したので、韓国チームの試合への意気込みを強く感じた。

今年の日本からの親善サッカー大会への参加者は12名とぎりぎりの人数であり、主要なメンバが不在と厳しい状況であった。そんな中、前半は0-1と1失点となんとか食らいついき、後半は韓国チームの足が止まった所で1点を返したが1-1で終了し、最終的には1-2で敗れてしまった。

しかしながら、参加者が少人数だったため日本チームの結束を強めることができた。また、試合後の前夜祭での韓国チームと春川の有名なダッカルビを食しながら交流を持つことができ、とても有意義な時間を過ごすことができた。

4. 今後の展開

次回は栃木開催であるため比較的参加しやすい場所であり、多くの参加者を募り、日韓の交流を更に深めたいと思う。

5. 写真



開会式



集合写真



会場最寄駅



会場



本会議場



記念品

以上

行事名	第12回 日韓親善サッカー大会(第45回 日韓技術士国際会議)
日時	日韓親善サッカー:2016年10月2日(日)15:00~17:00 (日韓技術士国際会議:2016年10月2日(日)~4日(火))
場所	日韓親善サッカー:河内総合運動公園(栃木県・宇都宮) 日韓技術士国際会議:きぬ川ホテル三日月(栃木県・日光)
講師、発表者	テーマ:伝統的技術と最新技術の融合と発展
担当者: (○印:リーダー)	○中村聡、白井一光、高橋義也(記)
参加者数	19名

1. 背景・目的

日韓技術士の親善の一環として開催されている日韓親善サッカー大会でのサポートと本会議へ参加し、韓国若手技術士との交流を深めると共に、技術士としての知識の向上を目的として参加した。

2. 例会内容

2. 1. 日韓技術士親善サッカー大会(15:00~21:30)

- ・親善試合
- ・前夜祭

2. 2. 本会議(9:00~21:00)

- ・開会式
- ・基調講演
- ・分科会
- ・晩餐会

3. 成果と所感

今年は日本での開催であったため親善試合のウォーミングアップ時に大会準備を補助していただいた高校生とプレマッチを行なった。実際、このプレマッチでは高校生のスピードと連携にはついて行けなかった。このような状態で韓国を相手に戦えるのか不安もあった。だが、実際の試合時は、日本が高校生のスピードに慣れていたことと韓国が移動直後ということもあり、前半は日本ペースで試合を運ぶことができた。だが、前半終了近くになると韓国もだいたい感覚を取り戻し、日本と互角、もしくは日本が若干押され気味であった。

後半は、フレンドリーマッチ後で、韓国のメインの選手もフレンドリーマッチに参加していた。日本は参加者数も多かったのでメインの選手を休息されていることができた。韓国はフレンドリーマッチに参加した疲れも見せず、後半も精力的に日本を攻め続けてきたが、日本のセンターバック中心に韓国のロングボールをことごとく弾き返した。我慢の時間帯に失点しなかったのが功を奏し、日本のカウンターで得点することができた。それも流れの中での得点ということもあり、日頃の成果が現れたものだと思信した。

試合終了を迎え3得点、しかも無失点と韓国相手に完全勝利することができ、一年間の活動は実を結んだ瞬間であった。やはり、勝利することで今まで活動していた仲間とこの喜びの瞬間をわかりあうことが好きだと感じ、サッカーの交流がこれからも続くことが大切であると思った。

4. 今後の展開

今年は日本の開催ということもあり、日本からは多くの参加者があり、その結果として日本の勝利につながったとおもうが、若手の参加者が少なく高齢化していることは否めない。これは韓国も同様の課題を抱えているようである。若手の参加者を増やすためには、定期的に練習会を開催し、参加の垣根を低くしていくしかないと感じている。

また、前夜祭、晩餐会、晩餐会後の交流と韓国との交流との楽しさを伝えることで、新たな参加者がふえるのではないかと考えている。

今後の活動としては、12月に日韓サッカーお疲れ会、来年は10/26(木)～28(土)に釜山で開催予定である。それに向けての活動はすでに始まっている。

5. 写真



以上

行事名	第13回 日韓親善サッカー大会(第47回 日韓技術士国際会議)
日時	日韓親善サッカー:2017年10月26日(木)15:00~18:00 (日韓技術士国際会議:2017年10月27日(金)~28日(土))
場所	日韓親善サッカー:釜山アシアード補助競技場(Busan Asiad Sub-Stadium)(韓国・釜山) 日韓技術士国際会議:ロッテホテル釜山(韓国・釜山)
講師、発表者	テーマ:気候変化と自然災害への挑戦と対応
担当者: (○印:リーダー)	○鈴木利治、後藤洋之、清水雄太、高橋義也(記)
参加者数	20名

1. 背景・目的

日韓技術士の親善の一環として開催されている日韓親善サッカー大会でのサポートと本会議へ参加し、韓国若手技術士との交流を深めると共に、技術士としての知識の向上を目的として参加した。

2. 例会内容

2. 1. 日韓技術士親善サッカー大会(15:00~21:30)

- ・親善試合
- ・交流会

2. 2. 本会議(9:00~21:00)

- ・開会式
- ・基調講演
- ・分科会
- ・晩餐会

3. 成果と所感

今年は韓国釜山での開催であり、日本チームの到着とほぼ同時に日韓親善サッカー大会が開催された。日本チームの前日入りしているメンバは事前にウォーミングアップを行っていたが、当日到着のメンバは軽いウォーミングアップのみで親善大会に臨む形となった。

今回は、レギュラーマッチを20分ハーフで行い、その間にフレンドリーマッチを20分行う方式での開催となった。前半前のミーティングからポジションを決めていたため、順調な滑り出しであった。しかし、やや韓国チーム側のペースで試合は進んでいったが、要所をきっちりと固めて日本チームにも得点のチャンスがあったが、前半はお互い0点のまま終了した。

後半も残り10分までは韓国側の攻撃を退けていたが、やはりホームでの地の利なのか、後半終了間際に失点を喫してしまった。それでも、一矢を報おうと日本チームも最後まで戦い続けたが、残念ながら得点できず敗北してしまった。

敗北したものの一年間の活動の成果は発揮していたのではないかと感じている。昨年は勝利して仲間と喜びを分かち合うことはできたが、今年は残念ながら喜びを分かち合うことができなかった。来年はこの素晴らしい仲間と勝利を分かち合うため、サッカーの交流がこれからも続くことが大切であると思った。

4. 今後の展開

今年は韓国の開催ではあったが、20名の参加者があった。これは青年委員からの参加が増えたことと、青年委員のイベントで告知した結果であると思う。そのため、引き続き青年委員のイベントで参加を集める活動を行っていく必要がある。

来年は日本の神戸で開催が決まっており、それに向けて活動を進めていきたいと考えている。

5. 写真



セレモニー①



セレモニー②



親善試合①



親善試合②



サッカー交流会



日韓技術士国際会議



晩餐会①



晩餐会②

以上

行事名	第14回 日韓親善サッカー大会(第48回日韓技術士国際会議 兵庫・神戸)
日時	<ul style="list-style-type: none"> ■日韓親善サッカー:2018年10月17日(水)14:00~17:00 ■前夜祭、サッカー交流会:2018年10月17日(水)19:00~21:00 (日韓技術士国際会議:2018年10月18日(木)~19日(金))
場所	<ul style="list-style-type: none"> ■日韓親善サッカー:神戸市立王子スポーツセンター 王子スタジアム ■前夜祭、サッカー交流会:ニューミュンヘン ハーフエンブルグ ■本会議:ホテルオークラ神戸
講師、発表者	
担当者: (○印:リーダー)	諸田敦洋、○鈴木利治、高橋義也、清水雄太、後藤洋之(記)
参加者数	23名

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、各地域本部とサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。

日韓技術士国際会議は、日本・韓国で交互に開催をしており、第48回となる今年は神戸(ホテルオークラ神戸)での開催である。日韓親善サッカーと本会議へ参加し、韓国若手技術士や参加者との交流を深めると共に、技術士としての研鑽を目的として参加した。

2. 実施内容

2.1. 日韓技術士親善サッカー大会(14:00~21:00)

- ・12:00~14:00 事前練習
- ・14:00~17:00 親善試合(本戦・フレンドリーマッチ)
- ・19:00~21:00 交流会

2.2. 本会議(9:00~21:00)

- ・9:00~10:00 式典
- ・10:00~12:00 基調講演
- ・13:00~17:00 分科会
- ・18:30~21:00 晚餐会

3. 成果と所感

3.1. 本戦・フレンドリーマッチを通じて

今年は神戸での開催であり、当日は9時より会場に入ることができたため、早めに会場に来れる人は午前中に入る等各自ウォーミングアップを行い、12時より事前練習(パス・ドリブル・シュート練習等)を行った。韓国チームは13時半頃に会場に到着し、予定より到着が遅れることから試合開始時間を遅らせる可能性があったが、韓国チームより大丈夫との回答があり、ほぼ予定通りの時間に日韓親善サッカー大会が開催された。

今回は、レギュラーマッチを25分ハーフで行い、その間にフレンドリーマッチを20分行う方式での開催となった。順調な滑り出しで、互いに攻めたり守ったりの均衡した状態で試合が進んでいったが、前半残り5分位の所で、中盤でのボール奪取からのカウンターをくらい、韓国に先制点を許す形となった。その後攻め返すも得点には結び付かず、前半は韓国の1点リードで終了した。

20分間のフレンドリーマッチでは、韓国側は本戦メンバーの大半が出場してきた。攻め手に勝る韓国がやや押し気味で試合は進んだが、互いに得点が無のまま0-0の引き分けで終了した。

本戦の後半は、韓国側の疲れが段々見え始め、徐々に日本チームの押し気味に試合を進めるようになり、相手のゴール前まで迫るシーンも増えていった。そして、遂に後半中盤で相手のDFの裏への抜け出しから得点が生まれ、1-1の同点に追い付く。その後は韓国チームも反撃に出始め、均衡した状態が続く中、終了間際のチャンスから打ったシュートは僅かにゴールを外れてしまい、1-1の引き分けで試合は終了した。引き分けの場合はアウェイチーム勝利のルールにより、残念ながら日本チームはあと一步のところまで負けという結果に終わり、昨年の雪辱を果たすことはできなかった。

敗北はしてしまったものの、今後に向けての課題は色々発見できたのではと感じている。韓国チームはフレンドリーマッチを含めると殆どの選手が 70 分間出場していることとなり、体力の違いが明らかで、フィジカルも強い選手が多い。毎週末に練習も行っているとのことで、組織力も日本チームより上であると感じた。来年は韓国(高陽市)での開催となりアウェイとなるが、各々の基礎体力作りや定期的な練習によりチーム力の強化を続けていく必要があると思った。

今回の開催にあたり、選手として参加された皆様、現地で応援して下さった皆様、声援を送っていただいた皆様、そしてご多忙の中準備を進めていただいた日韓委員、近畿本部の皆様にご感謝を申し上げますと共に、来年こそはこの素晴らしい仲間達と勝利を分かち合うため、サッカーの交流を続けていくことが大切であると思う。

3. 2. その他

今回は、開催直前になって諸田委員長にフレンドリーマッチへの出場をお願いすることとなり(当初は試合観戦と前夜祭での乾杯の音頭のみを予定)、事前練習の際に肉離れを起こして試合に出場できなくなるトラブルがあった。

日韓サッカーにおける青年委員会の位置付けについては、これまでの経緯を踏まえた上で、再確認が必要であると思われる。また青年委員会内でのサッカーの位置付けについても曖昧な部分があり、今後のことも見据えて考えていく必要があると感じた。今回の教訓も踏まえ、サッカー・フットサルを継承していくため、「タスクのリスト化」を行いたい考えである。

また今回、事前練習での球拾いを本技術士会の会長が行っていたことに気付かなかったメンバーが多数いたため、気を付けたい。

4. 今後の展開

・2018年12月1日～2日 日韓サッカーお疲れ会(統括)

5. 写真



セレモニー①



セレモニー②



親善試合①



親善試合②



サッカー交流会



日韓技術士国際会議



晩餐会①



晩餐会②

以上

行事名	第15回 日韓親善サッカー大会(第49回日韓技術士国際会議 韓国・高陽)
日時	<ul style="list-style-type: none"> ■日韓親善サッカー:2019年10月24日(木)14:30~17:00 ■前夜祭、サッカー交流会:2019年10月24日(水)19:00~21:00 (日韓技術士国際会議:2019年10月25日(金)~26日(土))
場所	<ul style="list-style-type: none"> ■日韓親善サッカー:ハナ銀行サッカースタジアム(MVLホテル高陽より約20km) ■前夜祭、サッカー交流会:MVLホテル高陽1F ■本会議:MVLホテル高陽2F
講師、発表者	
担当者: (○印:リーダー)	○後藤洋之(記)、清水雄太(記)、山本直樹、鈴木利治、
参加者数	17名

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、各地域本部とサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。

日韓技術士国際会議は、日本・韓国で交互に開催をしており、第49回となる今年は韓国高陽市(MVLホテル高陽)での開催である。日韓親善サッカーと本会議へ参加し、韓国若手技術士や参加者との交流を深めると共に、技術士としての研鑽を目的として参加した。

2. 実施内容

2.1. 日韓技術士親善サッカー大会(14:00~21:00)

- ・13:30~15:00 金浦空港より送迎バスでスタジアムに移動、着替え・準備
- ・15:00~17:00 開会式、親善試合(本戦・フレンドリーマッチ)
- ・19:00~21:00 交流会

2.2. 本会議(9:00~21:00)

- ・9:00~10:00 式典
- ・10:00~12:00 基調講演
- ・13:00~17:00 分科会
- ・18:30~21:00 晩餐会

3. 成果と所感

3.1. 本戦・フレンドリーマッチを通じて

今年は韓国での開催であり、13時半に金浦空港を出発する送迎バス(韓国技術士会が手配)に間に合うよう、各自往路便を設定して集合した。

試合は、レギュラーマッチを25分ハーフで行い、その間にフレンドリーマッチを25分行った。今年より、監督・主将が交代し、戦術考案を青年サッカーG、主将を清水委員補佐、交代指揮を日韓委員会の時合委員が務める新体制で進めることとなった。今回は清水主将の提案により、4-3-3(2ボランチ)のフォーメーションを組み、これまで採用していた1トップよりも前線の枚数を増やし、攻撃的な布陣にて臨んだ。均衡した形で試合が運んだが、人員・体力ともに勝る韓国に攻め込まれ、前半に1得点、後半に1得点を許す形となった。

引き分けの場合はアウェイチーム勝利のルールであったが、最後まで得点を奪うことが出来ず、0-2で敗戦となった。フレンドリーマッチも敗戦となった。

今回は、日韓関係の冷え込みの影響等もあり、参加者が17人と少なかった(日韓委員会からの応援参加も含む)。当初申込み段階では5人しかいなかったが、韓国渡航への不安を払拭すべく、サッカーメンバーが中心となって現地の情報収集や呼び掛けを行い、最終的にはフルメンバーでの試合をすることができた。

サッカー終了後は、前夜祭に出席した。その後、日韓サッカーチームでの二次会・三次会へと参加した。二次会では、韓国選手からの提案により全員の自己紹介をすることとなり、英語や通訳を交えつつ良い交流することができた。三次会のカラオケも大いに盛り上がった。

本会議後の晩餐会では MVP の発表があった。今回は、サッカーのみで帰国する参加者が多く、選考が難しい状況ではあったものの、多くのサッカー参加者からの推薦により、後藤委員が MVP に選出された。

今回も残念ながら敗北してしまったものの、全体を通じて日韓選手間での結束力がますます高まったことを感じることができ、国際交流におけるスポーツ交流の役割の大きさを実感した。

本会の開催にあたり、選手として参加された皆様、現地で応援して下さった皆様、声援を送っていただいた皆様、そして大変な中準備を進めていただいた日韓委員会と韓国技術士会の皆様に感謝を申し上げますと共に、素晴らしい仲間たちと末永く交流を深めていくため、サッカー交流を続けていくことが大切であると考えます。次回は節目となる第 50 回日韓技術士国際会議となり、仙台で開催される。親善サッカー大会は、2020 年 10 月 26 日(月)に開催予定であり、次回こそは勝利できるよう準備を進めていきたい。

3. 2. その他

今回は、青年の例会参加者が、日韓会議に興味を持っていただき、観戦として参加してもらうことができた。日頃のサッカーだけではなく、日韓会議自体の広報も有効であった。

日韓技術士国際会議は、技術士会として主催している数少ない国際学会の一つであり、普段では会話することができない技術士会会長や幹部・OB の方々が参加されている。

晩餐会では、後藤委員と清水委員補佐が日本技術士会寺井新会長と名刺交換をする機会に恵まれ、今後も交流活動を頑張りたいとの激励をいただいた。また、来年の仙台に向けても次こそは勝利をとも共通認識を確認できた。青年メンバー主導のサッカー活動が、技術士会内でも一定の評価を受けていることが分かった。

4. 今後の展開

- ・2019 年 12 月～2020 年 1 月 日韓サッカーお疲れ会(統括)
- ・2020 年 3 月 北陸本部合同練習会

5. 写真



セレモニー①



セレモニー②



親善試合①



親善試合②



親善試合③



親善試合④



前夜祭兼サッカー交流会①



前夜祭兼サッカー交流会②



二次会



三次会



本会議①



本会議②



晚餐会①



晚餐会②

以上